

令和元年度市政懇談会開催結果報告

【開会挨拶（市長）】

みなさん、日曜日というお休みの日の中、本日はお集まりいただきありがとうございます。ありがとうございます。

次第にもある通り、JRの問題、道の駅についてお話しさせていただきますが、まずは留萌市の財政状況についてご理解いただかなければならないのかなと思っております。

ご承知の通り、留萌市は財政健全化計画を作り、何とか平成27年に終え、その後財政の方針を定めるところで何とかやりくりをしているところです。

一次産業が非常に少なく、昔から公務員のマチと言われているように、非常に公務員が多く、それは留萌管内の中心地としての役割ということで、各関係機関の職員が非常に多いです。昭和40年代から50年代にかけて、学校なども子供の数が多く、マンモス校といわれた留萌小学校を、沖見小学校と2つに分けて、約20年たつと、沖見小学校の生徒が少なくなり、また留萌小学校と一つにしています。その留萌小学校も1学年3学級も維持できないような状況になってきています。

社会または環境の変化の中で、市の財政をやりくりしながら、どうしても交付税に頼る財政運営が負担になってきて、バランスを保ちながら、さまざまな事業をどのような形でやっていかなければならないのか、行政として考えていかなければならないと考えています。

現在、市立病院の医師が19人しかおらず、その中で総合病院を維持していくには、不足分の十数名を出張医という形で補っております。その分、人件費という形で負担となっている状況でございます。

その中で、3年前にJR北海道が、自身の運営について、13線区の線路に対して、見直しをかけたいと言いました。その内、赤線区、黄色線区という形で、5と、8。その内の5というのが、留萌線を含めて、他の代替交通で交通手段を維持できないか、残りの8についてはそれぞれの市町村も負担して、なんとか利用促進していくという形で提案されました。留萌線を維持していくには、9億の赤字が発生しており、それを4つの市町で、単純に線路の長さで考えていくと、その内の6億を負担することになります。皆さんが疑問に思うのは、その赤字を国や北海道が負担しながら市町村と協力して利用促進をしていくべきじゃないかということだと思いますが、JR北海道も国から監督命令が出ていますから、当然その命令の中には線区の見直しというものが出されております。JR北海道が自らの経営改善方針として出して、国としては、それに沿って経営改善をしてほしいと思っています。そのことで、国としては引き続き負担をしているということで、令和元年、令和2年の間で400億という負担を国がしています。先ほど言った8線区についてはそれぞれの市町村、北海道も負担して、促進策を出しながら経営している。先般、JR北海道についてお話を聞いてきたところによると、5年間の計画の中で、留萌線は非常に厳しい状況になってくるものと思って

おります。その中で、今後、留萌市のまちづくりのことをかんがえていくと、ただそのことを受け入れるだけじゃなく、市としてその次の対策も打っていく必要があるだろうということで、議会等を含めてお話しさせていただいているのは、るしんふれ愛パーク、留萌駅も含めて、まちづくりの一環として、次の一手をなるべく早く考えていくべきと考えています。JR北海道が企業として廃線やむなしで通告を受けた段階でまちづくりを考えていくということよりは、今から次の一手を考える時期にきてるのかなと思っております。

ただ、これは点ではなく線ですから、そこだけは理解をしていただきたく、単純に留萌だけが容認したとしても、線とすれば、今後、沼田町、秩父別町、深川市と十分協議しながら、このことを整理していかなければならないと考えています。

私としては、今のところ、両方を選択肢として見ながら、今後に向けて、各沿線自治体と協議を進めていきたいと考えているところです。

また、道の駅についてですが、いよいよ、深川留萌高規格自動車道が、今年度中に全線開通します。大和田インターから留萌インターまで、約4キロ伸びて、約50キロの高規格道路が完成します。その完成に合わせて、今後も231号線、232号線と協力しながら、この道路を有効活用していく。皆さんもご承知かと思いますが、道路が出来上がっていくなか、高規格道路が活用できるようになってから、死亡事故はゼロです。ですから、それだけ利便性の高い道路が完成してきておりますし、それぞれ留萌港へ木材や石炭が流れております。今後も物流の面を含めて、道路の活用を考えていかなければならないと考えております。その中で、道の駅の登録をして、この地域の情報を、来た方々に親切丁寧に発信していく、そのことで、地域の発展に寄与していけるのではないかと考えております。道の駅のあり方については、皆様、様々なお考えがあるかと思えます。形から入る方向、積み上げていくものを選択していく方向、形から入るといことはそこに魅力のあるものを作るということですが、今私が選択しているのは、徐々に積み上げていく。これは、道内では既に140以上の道の駅が出ていて、当然、あそこの道の駅はすばらしい、あそこの道の駅が何もないというような声があります。道の駅の目的は2つあると思えます。それは、道の駅に来る目的と、道の駅に寄ることによって情報を得る目的です。本来道の駅の役割は、あくまでも道しるべになってあげること、そこに地域の物産ですとか、せつかくこの地域に訪れていただいたんだから、こういうものを揃えていこう、など、だんだん道の駅の姿は変わってきたんだと思えます。

私が一番最初に参考にしたのは、三笠の道の駅です。三笠の道の駅は、北海道で最初に出来た道の駅です。そこには、公共的な施設、トイレがあって、そこに物産を少しづつおいて、道路情報だけを流していました。次に、そこはだんだん人の流れが変わり、コンビニになり、現在は温泉や、大きなモール、パークゴルフ場が出来て、今まさに、新たな物販機能が出来て賑わっております。その時の流れにそって形が変わってくる、そんな道の駅でいいのではないかと考えてますので、まずは来年のオープン、出来ればゴールデンウィークかその後くらいに道の駅を開業して、まずはチャレンジしてみたいと思えます。

現状、厚田の道の駅も、2階部分は冬期間閉鎖になります。留萌地域のことを考える

と、冬のことは心配になります。運営をする側にとって、1年間を通してどれくらいの収益があるのかというのは一番の問題ですので、1年、2年、色々チャレンジしてみて、一番いい形はどうか協議しながら進めていくべきと考えております。また、出来れば公園を活かしたい、天気の良い時は子ども達に外を駆け回って欲しい、また、室内に子ども達が集える場所も考えております。屋内外で子ども達が遊ぶ姿を見ながら、道の駅を成長を続けていければと思っております。

今日は、この後 JR、道の駅について職員から説明させていただきますので、皆さんからご意見をいただきながら、市政懇談会を進めてまいります。どうぞ、時間の許す限り、色々な意見の中で、それをまちづくりに変えていければと思いますので、よろしく願いいたします。

【市からの報告】

- ・ JR 留萌本線の今後とまちづくり
地域振興部長 向 井 智 仁
- ・ 留萌市道の駅基本計画（素案）の概要について
地域振興部長 向 井 智 仁

【意見交換】

- ・ 意見のある方に挙手を求め、その場で発言いただきました。
- ・ 詳細については別紙の通りです。

【閉会挨拶（市長）】

今日はみなさん、本当にありがとうございました。私としては、もう少し話が出来ればと思っておりますが、皆さんからいただいたご意見を整理させていただきたいと思っております。

生まれてからずっと留萌にいますと、なかなか気づかないところなどありますし、都会にあるものがそのままここにあればいいということだけでなく、このマチを活かしながらこんなものがあればいいよね、といった提案などもいただければと思っております。

是非、市長と膝を詰めて話したいという方がいれば、いつでも市に連絡をいただいて、日程調整をしながら、みなさんと少しでも、色々話が出来ればと思っております。また来年度に向けては、関係人口の方とも交流する場を作っていければと思っております。私一人ではできませんし、職員と一緒にしても出来ないこともあるし、市民から色々聞いて進めていかなければならないこともあると思っておりますので、是非、皆さんが感じたことを言っていただく、そして行政としての役割や、皆さんの役割、双方で力を合わせるまちづくりを進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。どうも、ありがとうございました。